

生きざまから人権伝える

連続講座「生きること」、9日からスタート

◎別紙チラシあり

さまざまな分野で活躍する人の生きざまに触れる連続講座「生きること」が9月9日（金）から枚方市内で始まる。昭和 53 年から始まったこの講座は、「人権」について考える機会となるよう毎年 4～5 人の講師を招き、体験や生き方などの「自分史」をそれぞれに一人称で語ってもらうというもの。過去には漫画家の水木しげるさんや写真家の吉田ルイ子さんなども講師を務めた。今年は全 4 回で大阪地検再犯防止対策室社会福祉アドバイザーの中川るみさんや、若年性アルツハイマー型認知症の妻を介護する外山努さんなどを講師に迎える。日程は9日（金）を皮切りに14日（水）、21日（水）、28日（水）のいずれも午後2時から。場所はサンプラザ生涯学習市民センター（枚方市駅東口サンプラザ3号館5階）。無料。

★初回の9日（金）は、大阪地検再犯防止対策室・社会福祉アドバイザーの中川るみ（なかがわ・るみ）さんが「相談を通して出会った、素敵な方たち ～悩む力強さに、励まされて～」と題し、たくさんの相談者と出会い、相談者の悩む力強さに自身が育てられた体験を語る。

★2回目の14日（水）は、なにわホネホネ団・団長の西澤真樹子（にしざわ・まきこ）さんが「動物が生きた証を未来に残す ～なにわホネホネ団の13年から～」と題し、博物館を舞台に、多くの仲間と骨格標本作成を楽しんできた生き方を語る。

★3回目の21日（水）は、枚方市老人介護者家族の会・理事の外山努（とやま・つとむ）さんが、「僕の妻は認知症 ～夫婦の絆～」と題し、若年性アルツハイマー型認知症の妻と向き合う体験を通じ、生きることの素晴らしさを語る。

★最終回となる28日（水）の講師は車いすの元気配達人・柳岡克子（やなおか・よしこ）さんで、「生きている喜び ～チャレンジは果てしなく～」と題し、重度の障害を持ちながらも多くの人に支えられてきた生い立ちを語る。

★各回定員 80 人で1講座のみの参加も可。4回とも申し込み受付中。参加無料。場所はサンプラザ生涯学習市民センター（枚方市駅東口サンプラザ3号館5階）。申し込みは枚方人権まちづくり協会（電話 072-844-8788・FAX072-844-8799）へ。

★この講座は昭和 53 年、さまざまな生き方を知ることで「人権」について考えてもらおうと「生きることについて」として始まった（当時は市教委が担当）。平成 11 年に名称が「生きること」に。これまでの講師はのべ 179 人で、漫画家の水木しげるさんや絵本作家の田島征三さん、写真家の吉田ルイ子さんなどもある。

<問い合わせ> 枚方市人権政策室 電話 072-841-1259、FAX072-841-1700

「相談を通して出会った、素敵な方たち ~悩む力強さに、励まされて~」

大阪地方検察庁 再犯防止対策室 社会福祉アドバイザー (京都地検兼務)

京都社会福祉士会 相談役・保護司等 なかがわ 中川 るみさん

9月9日(金)

「動物が生きた証を未来に残す

~なにわホネホネ団の13年から~」

なにわホネホネ団 団長 にしざわ まきこ 西澤 真樹子さん

9月14日(水)

2016年度 講座

生きること



~一人称で語る自分史~

「僕の妻は認知症 ~夫婦の絆~」

枚方市老人介護者家族の会 (ほっこりの会) 理事

とやま つとむ 外山 努さん

9月21日(水)

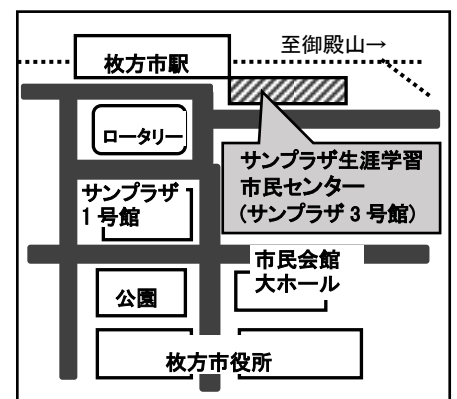
「生きている喜び ~チャレンジは果てしなく~」

車いすの元気配達人

やなおか よしこ 柳岡 克子さん

9月28日(水)

- 会場 サンプラザ生涯学習市民センター 視聴覚室(サンプラザ 3号館 5階)
- 時間 各講座 午後2時~4時
- 定員 各講座80人
- 参加費 無料 ※1講座のみの参加もできます
- 参加申込 9月1日から枚方人権まちづくり協会で直接または電話・FAXで参加受付
- 保育・手話・要約筆記 保育(各講座先着6人 1歳以上から就学前児)・手話・要約筆記の必要な方は、各講座一週間前(9月9日講座は9月6日)までに申し込んでください
- 申込・問合せ先 特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会
電話072-844-8788 FAX072-844-8799



主催 枚方市、枚方市教育委員会、特定非営利活動法人枚方人権まちづくり協会

2016年度

講座「生きる」と

講師からのメッセージ

一人称で語る自分史

第1回（9月9日）

「相談を通して出会った、素敵な方たち
～悩む力強さに、励まされて～」

大阪地方検察庁 再犯防止対策室 社会福祉アドバイザー（京都地
検兼務）・京都社会福祉士会 相談役・保護司等 なかがわ 中川 るみさん

相談では受け手である相談員も、悩める相談者も、双方がお互いに真剣な刺激を受けて成長します。相談者からさまざまな興味や好奇心や勉強意欲をいただき、相談員も変化します。「当てにし、当てにされ、当てにする」このきっかけから、たくさんの方々と出会い、悩む力に育てられました。

第2回（9月14日）

「動物が生きた証を未来に残す
～なにわホネホネ団の13年から～」

なにわホネホネ団 団長 にしざわ まきこ 西澤 真樹子さん

生きもの・読書大好き、学校嫌い。登校拒否真っ盛りの中学時代、理科の先生が教えてくれた野生動物の魅力から、いつしか彼らが生きた証を残し、多くの人に伝えたいと思うように。ゴキブリホイホイにかかったネズミから、海辺に漂着したクジラまで、出会った動物の死体は何でも回収。ホネホネ団が作った標本は2000点を超えました。博物館を舞台に、多くの仲間とホネを楽しんできた生き方を語ります。

第3回（9月21日）

「僕の妻は認知症 ～夫婦の絆～」

枚方市老人介護者家族の会（ほっこりの会）理事 とやま つとむ 外山 努さん

最愛の妻が、若年性アルツハイマー型認知症になった時、あなたはどうしますか。なんで僕の妻がという疑問を追求する毎日でした。妻の10年日記で知り得たことを多くの方にお伝えし、「生きることの素晴らしさ」「新たな希望」「命の大切さ」を皆さまにお伝えしたいと思っています。

第4回（9月28日）

「生きている喜び ～チャレンジは果てしなく～」

車いすの元気配達人 やなおか よしこ 柳岡 克子さん

仮死状態で生まれ、重度の障害を持ちながらも多くの人に支えられながらの生い立ちを語ります。自殺する人をなくしたい。こんな身体でもがんばっている人がいることを知ってもらいたい。当たり前だと思っていることがとても大切なことだと気づかされ、またがんばろうという気持ちになり生きる勇気をもらっていただければと思います。

